

〈 素 案 〉

札幌市教育アクションプラン（前期）における特徴的な取組

ビジョンで掲げた「札幌市の教育が目指す人間像」及び3つの「基本的方向性」に基づき、14基本施策、38施策からなる今後5年間で取り組むアクションプランを設定しました。

なお、これらの各施策はいずれも重要ですが、「人間像」の実現に向けた特徴的な取組を、以下のとおり示します。

1 札幌の「学び」の推進

ビジョンにおける札幌市の教育が目指す人間像「自立した札幌人」に示した「未来に向かって創造的に考え」は、人類がこれまで獲得してきた知識や技能を最大限活用し、これまでの価値の更新や、新しい価値を創造していくことを指しています。

子どもたちにそのような力を育てていくためには、幼少期から、発達の段階に応じて、学んだ知識や技能をつなぎ合わせ新たなものの見方や考え方を身に付けたり、課題を解決したりする学びをあらゆる機会を活用して経験させていくことが求められます。

また、変化の激しい社会にあっては、常に新しい知識や技能が生まれるとともに、その更新速度が増していく傾向にあります。このため、知識の量を増やしていくような「学び」だけでなく、子どもが、将来に願いや夢を描きながら、学び続けようとする意欲や、学び続けていくために必要な学び方を身に付けることのできるような「学び」を充実させていくことが必要です。

こうしたことを、これからの札幌市における「学び」の在り方として位置付け、教育委員会と学校があらゆる機会を活用して、効果的な教育施策や教育活動等を進めていくことが重要となります。

具体的な推進施策等については、以下の4点から構成することとします。

① 分かる・できる・楽しい授業の推進

「学ぶ意欲」、「活かす力」、「学んだ力」の学力の3要素をバランスよく伸ばす、「学ぶ力」の育成を重視し、教育委員会、学校、家庭、地域が一体となった取組を進めるため「さっぽろっこ『学ぶ力』の育成プラン」を導入します。

その中核となるのは、各学校において作成・実行する学校ごとの「『学ぶ力』の育成プラン」です。各学校が、自校の児童生徒の状況を踏まえて、体験的な活動や言語活動、問題解決的な学習活動等を取り入れた授業の工夫改善を行うことにより「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実を図ったり、自分への自信をもたせるための、個に応じたきめ細かい指導の充実を図るなど、より実効性ある教育活動を求めて、改善を図っています。また、教育委員会として、子どもの自己評価を生かした全市共通の評価指標を導入し、実効性あるPDCAサイクルの確立を図り、教育活動等の妥当性や信頼性を高めていきます。

② 活かす力を育む「課題探究的な学習」の推進

国際学力調査（PISA調査、TIMSS調査）や、全国学力・学習状況調査などの結果から、我が国の子どもたちの学力について、基礎的な知識・技能は概ね身につけていますが、それを活用する力に課題があることや、日本の子どもの学習意欲が低いとの指摘があり、札幌市の児童生徒にも同様の傾向が見られます。

そのため、自ら疑問や課題をもち、それを解決する「課題探究的な学習」が重要であり、そのひとつの切り込み口として、「**科学的リテラシーを育む学び**」を進め、「予想や仮説を基に観察・実験を行い、その結果から考察する」というサイクルを実践し、知識・技能と活用を結ぶ学習モデルを確立していきます。

③ 「学ぶ意欲」の育成

「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対して、小学生の67%が「当てはまる」と回答したのに対し、中学生は約46%と21ポイントも減少しています。この結果から、心身の成長にしたがって、幼いころに夢が空想的であったことに気付くものの、それに代わる目標を見いだせずにいる中学生の姿が浮かび上がってきます。

そのため、将来の生き方や進路について考えさせる「**進路探究学習**」をより一層推進し、現実社会で活躍する多様かつ魅了的な大人に接する機会を設けたり、様々な職業の存在を気付かせたりしながら、広い視野から社会や職業を捉える力を培っていくことが重要です。

そうした社会体験を多く経験させることによって、自分が誰かの役に立っていると感じるなど「自己肯定感」を育み、自分の夢を描き、自己の実現に向けて意欲的に取り組もうとする心を養うことにつながっていきます。

④ 「札幌らしさを実感するとともに国際性を育む学び」の充実

「自立した札幌人」の育成を目指す学校教育を具現化するためには、ふるさと札幌に立脚して「学ぶ力」「豊かな心」「健やかな身体」などの「生きる力」を育むことが大切であり、「札幌らしい特色ある学校教育」とは、このような考えに基づいて、各幼稚園・学校が、札幌の素晴らしい自然環境・人的環境・文化的環境などを活かしながら、体験的な活動や、生涯にわたり学び・向上し続けようとする意欲を培うための基盤となる学習活動です。

従って、「自立した札幌人」の実現のため、引き続き「雪」「環境」「読書」の三つのテーマを中核に据えて取り組む**札幌らしい特色ある学校教育**を推進するとともに、「**ふるさと札幌**」を学ぶ機会の充実を図ります。

また、外国語や異文化に触れるなど**国際性を育む学び**を通して、急速に進むこれからの社会において必要となる国際的な視野を養っていきます。このことは、幅広い視野に立って物事を考えていく力をつけることにもなり、一方で「ふるさと札幌」を客観的に見つめ直すことにもつながります。

2 「生きる喜び」を実感できる取組の推進

核家族化や都市化など急激な社会変化の中で、家庭での出産や家族の死など命に関わる大切な場面に直接ふれる機会が失われつつある状況を鑑み、多くの児童生徒にとって生や死の意味について真剣に考え、命のかけがえのなさや人生が一度しかないことについて理解し、命の大切さや生きる喜びを実感として捉える場が必要であると言われていました。

また、いじめや不登校、子どもの自殺等の問題への対応として、これまで、命を大切にする指導の充実やいじめの問題の未然防止・早期発見・早期対応に向けた取組の充実、関係機関との連携体制や相談・支援体制の強化などを推進してきていますが、全国的な傾向と同様、札幌市においてもこれらの問題は、引き続き喫緊の課題となっています。

これらの課題への対応としては、自己を肯定的に受け止めることや他者の尊重・思いやりなど、豊かな心の育成を図るとともに、子ども同士が助け合い支え合う活動などを意図的、計画的に行うなど、未然防止に向けた取組を進めていくことが大切です。

これらの状況を踏まえ、子どもが「生きる喜び」を実感できるよう、命を大切にする指導やいじめ、不登校への対応について、以下の取組を推進します。

⑤ 「命を大切にする指導」の充実

子どもの発達の段階に応じて、かけがえのない命を大切にすることや思いやりの心をもつこと、自己を肯定的に受け止められるように指導を進めることが大切であることから、道徳の時間を要として、学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育により、命の大切さを考えたり、児童生徒が自分を大切に思う自尊感情を育んだりするとともに、自然や人と豊かに関わる体験活動の充実を図るなどして、命の大切さを実感し自分や他者の生命を尊重する態度を育む取組を推進します。

また、子どもが学校生活等に不安や悩みを抱いたときに、周りの大人、とりわけ教職員が、悩んでいる子どもに気付き、声をかけ、話を聞いて、さらに必要な支援につなげ見守る、いわゆる「ゲートキーパー」として、子どもの自殺のサインに気付き、的確に対応することが重要であり、こうした「**命を大切にする指導**」をより一層充実させていきます。

⑥ 子どもが安心して学べる支援体制・早期発見・早期対応

いじめへの対応としては、「いじめは絶対に許されない」との認識に立ち、子どもたち同士の心の結び付きを深める取組を推進することが大切です。

また、不登校への取組としては、子どもが安心して通える学校・学級づくりを進めるとともに、必要に応じて関係機関等と連携を図りながら適切に子どもたちに働きかけることも重要です。

さらに、アンケートの活用や教職員間の連携等により、子どもの小さな変化に気付き、適切に対応することも大変重要であり、いじめ・不登校を含め、子どもの悩みや不安感を解消するための相談や居場所づくり、早期発見・早期対応を行う、「**子どもが安心して学べる支援体制の充実**」や「**学びに困難を抱える子どもへの対応の充実**」を一層進めます。

これらの項目は、「札幌市の教育が目指す人間像」の実現に向けて、下記のとおり、特に深く関連しています。

未来に向かって創造的に考え、主体的に行動する人

- ⇒①分かる・できる・楽しい授業の推進（→さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン）
- ② 「思考力・判断力・表現力等」の育成（→科学的リテラシーを育む学び）
- ③ 「学ぶ意欲」の育成（→進路探究学習の推進）

心豊かで自他を尊重し、共に高め合い、支え合う人

- ⇒⑤「命を大切にする指導」の充実
- ⑥子どもが安心して学べる支援体制・早期発見・早期対応

ふるさと札幌を心にもち、国際的な視野で学び続ける人

- ⇒④「札幌らしさを実感するとともに国際性を育む学び」の充実